

## 患者さまへ

### 「回復期リハビリテーション病棟における

### 排尿ケアチーム介入後の内服治療終了に影響を与える因子の検討」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2021年9月から2023年12月までに当院の回復期リハビリテーション病棟に入院した患者さまのうち、排尿ケアチームが関わった患者さまで、内服薬が処方され、尿道カテーテルを抜いた患者さま。
2 研究目的・方法	尿が出ない患者さまに対し、尿道カテーテルという管を入れることがあります。その管を抜くことになった時、尿道の閉まり具合を調節することを目的に、薬を内服していただく場合があります。その薬は、内服終了となる場合と内服継続となる場合がありますが、その背景についてはわかっていません。この研究は、当院で排尿ケアチームが関わった入院患者さまのうち、内服薬が終了した患者さまと、継続となった患者さまにおいて、なにが影響を与えるのか検討することを目的とします。これにより排尿自立支援を円滑に行うことが可能となると考えられます。 患者さまの背景情報等について、すでに得られている診療録の情報からなにが影響しているのか検討します。 研究の期間：施設院長許可(2024年10月予定)後～2026年6月
3 情報の利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さまもしくは患者さまのご家族等で患者さまの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。
4 研究に用いる情報の種類	情報：年齢、性別、入院診療科、現病歴、機能的自立度評価、排尿ケアチームラウンド介入回数 等
5 お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。  照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 研究責任者：磯野礼果 所属：大垣徳洲会病院・薬剤部、副主任 住所：岐阜県大垣市林町6丁目85-1 連絡先：0584-77-6110